

国語科学習指導案

指導者 浜岡 恵子

日時 平成30年11月17日（土） 第3校時（13:15～14:05）
年組 中学校第3学年1組 計40名（男子19名，女子21名）
場所 中学校第3学年1組教室
単元 『詩人の時間』を体験する ～詩人との共創にチャレンジしよう～

単元について

『詩人の時間』を体験するは山元，中井の実践である。この実践を，「豊かなことばのつかい手」を育成する単元の一つとして，昨年度よりカリキュラムに設定している。詩の授業は，必ず年間の学習内容に設定されてはいるものの，中学校での指導の重点が鑑賞に置かれていることは昨年度も指摘したところである。そこには，「学校現場において実践経験の少ない『詩の創作』に関しては，どうやって授業を作るのかという指導の問題以前に，『詩を創作すること』そのもののイメージを指導者が明確に持てない」（山元，中井）こと，加えて創作された作品をどう評価していくのか，という点も難しい課題として挙げられるだろう。詩を創作する中で，学習者は意義や楽しさを十分実感しており，活動の中に「言葉と向き合う」しかけは作り出すことができたが，作品としての詩をどう評価すればよいかということがはっきりしないままでは，学習の達成感は得にくい。

本学級の生徒は，昨年度『詩人の時間』を体験する～詩を創作しよう～を学習している。昨年度の研究についての詳細は本校紀要（2017）に述べているので省略するが，前述の通り詩の創作において，その意義や経験としての楽しさをさまざまに語っていた。今回，昨年の学習から約1年を経過して，生徒が詩の創作に対してどのようなイメージをもっているか事前にアンケート調査（2018年10月）を行った。その結果，「創作への意欲」に関して，40人中28人の生徒が前向きな評価をしており，昨年度の学習前に比べて，かなり高くなっている。また，「創作の方法」についても，「昨年度の学習を活かして創作する」と答えた生徒は30人，「昨年度の学習とは別の方法で創作する」と答えた生徒は6人，「よくわからない」4人という結果で，昨年度の学習における「マインドマップ」による「言葉集め」と「付箋の活用」による「言葉選び」を，創作の道筋としてイメージしていることがわかった。ただし，創作に際して「不安なこと」として，「イメージするのが難しい題名だと困る」や「何も（イメージが）浮かんでこなかったのので，（詩を）作ったけど自信がない」という意見が挙げられていた。

そこで今回，次の二点に重点をおいた指導を行う。一つ目は，詩のテーマは自分で選ぶこととし，十分にイメージを作ってから創作に入る。詞華集を作ることを目的として，様々な詩に触れる活動を入れていく。二つ目は，同じ題名で書かれた詩人の詩と自分の作品を比較し，優劣を決めるのではなく，テーマのとらえ方や発想を表現するための言葉選びや表現技法等に注目しながら，それぞれの詩の良さを具体的に述べる中で，自他の作品を評価できるようにする。「詩の創作」を通じて，たくさんの美しい言葉に出会い，吟味する学習を積み重ねながら，生徒一人ひとりが「豊かなことば」を獲得した実感を得ることが，学びを豊かにする指導であると考えている。

指導目標

1. 詩の創作を通して，詩に親しむことができるようにする。
2. 発想を広げていくための言葉を選ぶ作業を通して，自分の表現を見つめ直すことができるようにする。

指導計画（全5時間）

	学習活動	指導の手立て
事前	○さまざまな詩を読む。（同じテーマで書かれた作品，表現に特徴のある詩等） ・対象をとらえる視点や切り口 ・思いを表す言葉選び ・効果的な表現技法	○これまでの学習体験を想起させる。 ○「詩」を創作するにあたって，視点の置き方や表現方法の多様さを知ること，創作に対する意欲を高める。
第1・2時	○詩のテーマを決める。 ○テーマからイメージしたものを，マインドマップに書く。 ○マインドマップから，4つの言葉を選び，付箋に書く ○付箋をもとに詩を書く。	○創作手順を理解させる。 ○マインドマップを書く時間をしっかり確保する。 ○2つ選んだテーマについて，両方を詩にしても良いし，どちらか一つでも良いことにする。
第3時（本時）	○同じテーマで詩人の書いた詩を提示し，比較しながらそれぞれの良い点を挙げさせる。 ・自己評価 ・他者評価	○優劣を判断するのではなく，それぞれの詩の特徴，良さを見つけて評価できるようにする。
第4時	○詩を仕上げる。 ・他者の評価も参考にしながら推敲し，清書する。 ○創作について振り返る。 ・自分のイメージを表現する言葉を見つけたか。 ・表現技法等を用いて，効果的に表現することができたか。	○イメージした世界を表現するための言葉選びや表現技法を吟味させる。 ○創作にあたって，自分が腐心した点や満足している点をしっかり考えるようにさせる。 ○反省点に目を向けるのではなく，次の創作への意欲につながるような声かけをする。
第5時	○詞華集を作る。 ○詞華集を互いに読み合い，本の帯を作る。	○装丁や詩の配列にも工夫を凝らすことができるよう，見本を示す。 ○完成した詞華集を読み，さらに多くの詩に触れあう機会を設ける。

本時の目標

テーマが同じ詩人の詩と自分の詩とを，言葉，内容，構成，表現方法等さまざまな観点から比較し，それぞれの詩の良さを見つけることができる。

学びを豊かにするための手立て

マインドマップと付箋を使うことにより，自分のイメージを俯瞰できるようにすることが第一の手立てである。また，本単元の学習では，詩人の創作した詩と同テーマの自分の詩とを比較することで，詩人の豊かな表現に気づくとともに生徒自身が創作した詩の価値も見いだせるようにすることが第二の手立てである。

学習の展開

学 習 活 動 と 内 容	指 導 上 の 留 意 点 (◆ 評 価)
<p>〔全 体〕 5分</p> <p>1. 本時の目標を確認する。</p>	<p>○本時では、自分達が創作した詩と同じテーマで書かれた詩人の作品を様々な観点から分析し、それぞれの良さを見つけること、それを基に自分の作品を推敲し、完成させていくことを伝える。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>『詩人の時間』を体験する ～詩人との共創にチャレンジしよう～</p> </div>	
<p>〔個 人〕 10分</p> <p>2. 自分が創作した詩と同じテーマで書かれた詩人の詩を比較する。</p> <p>〔グループ〕 15分</p> <p>3. 4人グループで互いの詩と詩人の詩を読み合い、評価する。</p> <p>〔個 人〕 10分</p> <p>4. グループでの評価を参考にしながら、自分の詩を推敲し、清書する。</p>	<p>○詩人の作品を配布する。</p> <p>○違いを観点ごとにメモさせる。</p> <p>○それぞれの作品の良さを見つけ、肯定的な評価をするように指示する。</p> <p>○詩を回しながらコメントを書いていくようになるが、時間があれば直接質問や感想を述べ合うのが良い。</p> <p>○生徒によって推敲する時間は違ってくるので、清書は急かささないでおく。</p>
<p>〔全 体〕 10分</p> <p>5. 本時の学習を振り返る。</p> <p>・自分と詩人の作品を比較し、それぞれの良さを具体的に述べることをできたかを振り返る。</p>	<p>◆自分と詩人の作品について、複数の観点から違いを見つけ、それぞれを肯定的に評価することができたか。</p> <p>○振り返りを全体で共有する際は、清書がすんだ状態でなくてもよしとして、できるだけ作品も披露させる。</p>

参考文献

- 山元隆春, 中井悠加 『詩人の時間』を体験する (日本国語教育学会編『月刊国語教育研究』. 2013.)
- 浜岡恵子ほか 「詩の創作を通して思考力を高める指導法の研究Ⅱー『詩人の時間』を実感する学習ー」 広島大学附属東雲中学校研究紀要『中学教育』第49集. 2018. pp.9-15.